

けん き陰な空間を減らそう

題材のねらい

家の中の危険な空間を減らしたり、けがをしたときの応急手当ができるなど、防災・減災に向けた技能を身につける。

教科等との関連

体育 G保健(2)

けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入	地震が起こると部屋の中はどうなるか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 資料Aから、タンスや本棚の上にある物、パソコン台のプリンタの落下など、物を置くことで、部屋の中でけがをする危険な空間が広がることに気づかせる。
展開	<p>けがなどの原因から危険な空間を減らす方法を話し合う。</p> <p>応急処置の方法を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部屋の危険な空間を減らす安全な空間づくりについて考えさせる。 タンスの転倒防止、パソコン台の移動防止、戸棚の開閉防止の方法を知らせる。 応急手当の方法を知らせ、実際に、身の回りにあるもので応急処置ができることを理解させる。
まとめ	日頃の備えについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの備えが、命を守ることやけがの防止につながることを理解させる。

き陰な空間を減らそう

A

B 阪神・淡路大震災のけがなどの原因

けがの原因

家具が転倒した	48.5%
落下したガラスが当たった	15.8%
たすの上からの落下物が当たった	10.5%
にげようとしたときに転倒した	8.8%
その他	16.4%

人がなくなった原因

家具のとうかいによる圧死、ちっせ死	72.6%
窒息	7.4%
その他	20.0%

少しもき陰を減らすには、1階より2階でねるほうが安全だよ。

C 身の回りのもので応急手当ができます

+ 出血があるとき

●出血している口をガーゼやハンカチなどでおさえて、しばらく圧します。この方法が最も基本的な方法です。

▼使えるもの
ガーゼ、ハンカチ、タオル

+ ねんざ、こっ折かもしれないとき

●いたところを動かさないように固定し、少し高い位置にして冷やします。

▼使えるもの
ダンボール、雑誌、新聞紙、木箱、タオル、ロープ

+ やけどをしているとき

●すぐに流水などでいたみがとれるまで冷やします。皮みきずつづけるので、衣服はぬがなくてそのまま冷やします。

●きれいなタオルでおおっておきます。

▼使えるもの
タオルなど

参考

人を運ぶときたんか役立ちます。
服や長いぼうがあれば、たんかが作れます。

▼使えるもの
ものほしざお、服

体育 5年 26

27 5年 体育

A ○大きな地震が起これば、固定されていないもの(ピアノ、PC、本、積み上げられた箱、ラジカセなど)はどのようなになるかを考えさせる。
○安全な空間の確保が重要であることに気づかせる。

B 【出典】阪神・淡路大震災における市民行動調査(神戸市消防局)
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/library/contents/7d631f090d3a01f/jishin14.pdf>
<http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/daishinsai/1.html>

C 災害時の応急手当(NPO 法人災害・医療・町づくり)
<http://trriage.web.fc2.com/saigai-oukyu.htm>